

1 所在地 愛知県名古屋市中丸町三丁目

2 調査期間 一九九六年（平8）四月～一九九九年三月

3  
発掘機関  
愛知県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 永井宏幸ほか

5 遺跡の種類 集落跡・自然流路

6 遺跡の年代 弥生時代中期～江戸時代

7 木簡の釈文・内容

志賀公園遺跡では古代の木簡が六点出土し、本誌第二四号で報告した。今回追加する木簡は、九六A区SD〇六から出土した中世の卒塔婆一点である。SD〇六は、下位に須恵器など古代の遺物を含む層が確認でき、堆積状態から流路の可能性がある。卒塔婆の年代は、共伴する山茶碗の年代観から、いずれも一三世紀前半と考えられる。

(1) [ ]

490×30×3 061

(2) <sup>(バン)</sup>・大日如来 □ □ □

$$\bullet \square \square \square \square \square \square \square \quad (324) \times 21 \times 4 \quad 061$$

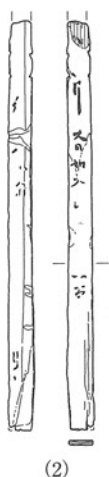
(1)は完形の卒塔婆。頭部に五輪塔状の切り込みがみられる。墨痕は一カ所確認できるが内容は不明である。

(2)は頭部が一部欠損しているもののはば全形を確認できる。頭部には切り込みによる五輪塔状の加工がみられる。表面は梵字バンに続き、「大日如来」まで判読できるが、以下三字分については判読できない。裏面は六文字分の墨痕が確認できるが、判読できない。

9  
関係文献

愛知県埋蔵文化財センター『志賀公園遺跡』（二〇〇一年）

(永井宏幸)



(2)



(1)